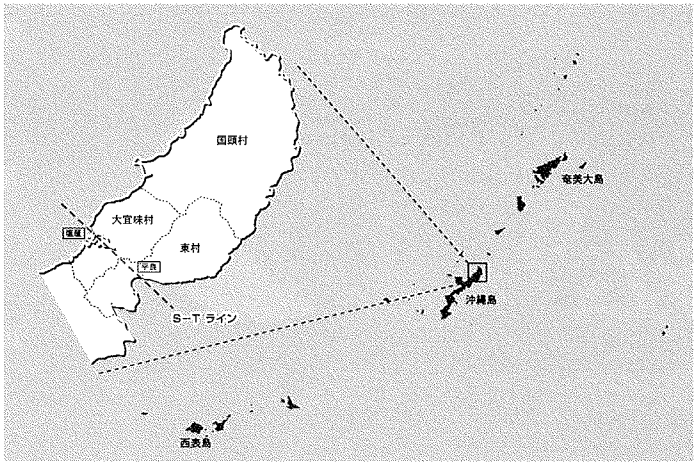
琉球弧の生物多様性の豊かさを感じよう

九州の南部から台湾に至る弓状の島々の連なりは「琉球弧」と呼ばれています。この琉球弧の島々は、本州や大陸とつながったり、離れたりを繰り返したことにより、各島々で独自の生物の進化が見られ、世界でここだけにしかいない生物が多く見られるのが特徴です。

このため、平成14年の「世界自然遺産候補地に関する検討委員会」において、トカラ列島以南の奄美諸島、沖縄諸島及び先島諸島などの島々を含む琉球列島が世界遺産の候補地に選定されました。

琉球弧自然フォーラムは、琉球弧の豊かな自然を引き継ぐことの重要性を広く伝えるために平成18年度より開催されています。（平成18年度・宜野湾市、平成19年度・竹富町、平成20年度・奄美市）

今回は、琉球弧の中核地域であるやんばるを舞台に奄美・やんばる・西表地域の自然が育む固有の生き物たちにスポットをあて、琉球弧の生物多様性について考えます。



やんばる（山原）について

沖縄島北部の国頭村、大宜味村、東村の三村は山がちな地形と広大な森林が広がっていることから、「やんばる（山原）」と呼ばれています。

現在、やんばるの希少な生き物たちの多くは、豊かな森が残るS-Tライン（塩屋ー平良線）より北の地域に生息しています。外来種であるマングースの北上防止柵もこのライン付近に設置されています。

【プログラム】

13：30　受付開始

14：00　開会　あいさつ　奥田直久　環境省那覇自然環境事務所 所長
　　あいさつ　宮城　馨　国頭村 村長

14：15　第一部「生きた化石たちを育んできた奇跡の島々の自然」
　　コーディネーター：吉田　正人
　　コメンテーター　：佐々木健志
　　奄美・やんばる・西表の自然をそれぞれの地域から紹介
　　①「アマミノクロウサギだけじゃないのです、奄美大島」：永江直志（奄美自然学校）
　　②「やんばるの森のアイドルたち」：久高将洋（NPO法人国頭ツーリズム協会）
　　③「西表島の自然とイリオモテヤマネコ」：岡村麻生（西表野生生物保護センター）

15：55　休憩

16：10　第二部「琉球弧の奇跡の自然を次世代へ」
　　琉球弧の自然がおかれた現状、その保全のための課題、そして世界自然遺産登録へ向けて、コーディネーター、コメンテーター、各地域の発表者によるトークショー
　　コーディネーター：吉田正人
　　パネリスト：佐々木健志、永江直志、久高将洋、岡村麻生

16：50　閉会　鹿児島県、沖縄県あいさつ

【出席者紹介】

【コーディネーター】

吉　田　正　人

江戸川大学 社会学部ライフデザイン科 教授

1982年から2004年まで日本自然保護協会の研究員や常務理事等を務め、自然保護に関する調査研究、保全活動に取り組む。2006年から現職。2003年には環境省・林野庁の検討会の委員の一人として、琉球諸島を世界自然遺産候補地に選定した。

【コメンテーター】

佐々木　健　志

琉球大学資料館（風樹館）・博物館学芸員

主に昆虫類、クモ類を専門として、琉球諸島における希少生物に関する多くの調査研究（沖縄県レッドデータブック、環境省イリオモテボタル調査、ヤンバルテナガコガネ調査等）に携わる。やんばる地域、西表地域を主なフィールドとしており、現場の情報に詳しい。

【地域からの報告】

永　江　直　志

奄美自然学校代表

奄美大島生まれ、奄美大島育ち。高校卒業後、関東で自然保護関係のNGO職員として17年間勤務。環境教育をメインに各種研修の講師などを担当。2006年にふるさと奄美へUターン。現在はツアーガイドらの傍ら、島のための活動に取り組む。

久　高　将　洋

NPO法人国頭ツーリズム協会 研究員・ガイド

国頭村生まれ、国頭村辺土名在住。2004年から国頭ツーリズム協会が開講する人材育成講座において、インタープリターの知識や技術を学ぶ。2006年より、同協会に勤務しツアープログラムや自然観察会の企画・運営などの事業に携わる。

岡　村　麻　生

西表野生生物保護センター自然保護専門員、理学博士

20年にわたり、イリオモテヤマネコの研究に従事。1992年からは西表島在住、2001年より現職。島に住んで地元の人の声を聞きながら、イリオモテヤマネコの研究・保全活動に取り組んでいる。